

英国の医療体制

- 国のNHS(national health service)で運営、自己負担なし。(英国の消費税は17.5%)
- 国民は家庭医に登録、健康問題の全般を相談。
- 家庭医はすべての医療の窓口。

家庭医 (GP: general practitioner)

- プライマリケア専門医。国民ほぼ全員が登録している。
- 患者の自主性を尊重しながら日常的な健康問題や慢性疾患を中心に診療。



- トレーニングをうけたNsが基本的な外傷ケア、高血圧などの慢性疾患管理も行い、処方も可能。
- 患者の98%がNsのケアに満足。

Stuart Road Surgery

Princess Alice Hospice



- London. 28床。スタッフはDr. 6人を含む300人。
- 医療のため自己負担なし。治療はホスピスDr. が引き継ぐ。
- 在院日数は平均13日。看取りはほとんどが在宅。ホスピスは12%、病院はほぼ0%。



英国の福祉体制

- 介護保険制度は無い。福祉施設利用費(月30-40万円)は全額自己負担。
- 福祉施設はナーシングホーム、老人ホーム、グループホーム、シェルタードハウジング、シェアードハウスがある。分類は厳密では無い。

Rowanweald Care Home



- London. ナーシングホーム。医療はGP。1階30床、2階30床 (NHS管理リハビリ施設) 3階15床。
- £3800/月 (65万円)



Queens Court Care Home



- London, Wimbledon. 1階8室、2階14室、3階19室。スタッフはNs. 10人を含む70人。
- ナーシングホーム：82万円/月
レジデンシャルホーム：65万円/月



Margaret
Hilda
Thatcher

家族への支援



Camden Cares

- ・ London.
- ・ 介護者の無料サービスセンター。
- ・ 相談受付、カウンセリングを行う。



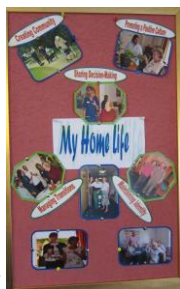
Lotus Dementia Café

- ・ London.
- ・ 情報交換の場。非営利団体。

英国のケア

- ・ 「できないことをやってあげる」のではなく、「できないことをできるように支援する」介護。
- ・ 「自力で食事をとれなくなったら寿命」
- ・ 自立した生活のための在宅ケア、施設ケア、病院、ホスピスも在宅療養を継続するために利用。

My Home Life



- ・ Community : 地域社会, 共同体
- ・ Culture : 文化
- ・ Decision-Making : 意思決定
- ・ Transition : 変化
- ・ Identity : 主体性, 独自性



人生経験を自立した生活に生かす
地域包括ケア

まとめ

- ・ 先に高齢化社会を経験した英国の現状は、自立した生活を目指す在宅ケアの参考になる。
- ・ 人生経験を生かす地域包括ケアシステムの確立を秋田で目指す。
- ・ この経験は世界のモデルケースとなり得る。